

令和8年度 入学試験問題

世界史

注意事項

1. 問題冊子と解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 机の上の受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認しなさい。
3. 受験票は、受験番号が見える面を上にして、机の上の受験番号シールと並べて置きなさい。
4. 受験票のほかに試験時間中机の上に置けるものは、黒鉛筆（和歌・格言等が印刷されているものは不可）、鉛筆キャップ、シャープペンシル（黒い芯に限る。ボールペン付きは不可）、消しゴム、鉛筆削り（電動式、大型のもの、ナイフ類は不可）、時計（辞書・電卓・端末等の機能があるものやそれらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマーや学習タイマー、大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）です。
5. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 携帯電話等の電子機器類は、必ずアラームの設定を解除し、電源を切っておきなさい。試験時間中にこれらをかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていたりすると不正行為となることがあります。
7. また、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の着信音やマナーモードの振動音などが発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で試験終了まで保管します。
8. 監督者の指示があるまでは、試験室から退室できません。
9. 監督者の説明を聞いて、正しい符号の問題冊子と解答用紙が配布されているか、確認しなさい。
10. 試験開始の合図があったら、解答用紙の所定の位置に受験番号シールを貼り付けなさい。なお、氏名は、どこにも書いてはいけません。
11. 問題は2ページから12ページまであります。試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合には、手を挙げて、すみやかに監督者に告げなさい。
12. 試験時間中気分が悪くなった場合は、監督者に申し出なさい。ただし、休養等に要した時間の延長は認めません。
13. 不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験はできなくなります。また、同日に受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。
14. 解答用紙は必ず提出しなさい。問題冊子は持ち帰りなさい。

〔 I 〕 つぎの文章を読んで、下記の設問に答えよ。

前 1500 年ごろからパンジャブ地方に來住し、さまざまな自然神を崇拝して牧畜を営んできたアーリヤ人は、前 1000 年ごろになるとガンジス川流域に移動をはじめ、非アーリヤ系の先住民を支配しつつ、定住して農耕に従事するようになっていった。前 600 年ごろまでにはガンジス川中流域に都市が成長し、それらを束ねる王を中心とする国家がいくつもあらわれたが、この過程で形成されていったのは、元來「色」を意味する語である [a] を組織原理としたアーリヤ人中心の、独特の身分秩序をもつ社会であった。

その秩序の最上位におかれるようになったのは、最初に自然神への讃歌を、そしてのちに詠歌、祭詞、呪法の 3 種を加えて [b] としてまとめ、それらを根本聖典として祭式をとりおこなってきたバラモンであった。司祭身分のバラモン、王侯・戦士身分のクシャトリヤ、一般庶民（のちには主として商人）身分の [c] までは [b] の祭式に参加できたが、これら 3 身分に奉仕する義務をもつ最下位身分のシュードラには祭式への参加が認められていなかった。こうして、4 つの [a] から成る身分制を基本構造とし、計 4 種の根本聖典とそれらに付属する文献群で構成されるようになった [b] をよりどころとする祭式至上主義のバラモン教が成立する。

しかし前 6 世紀ごろから、農業生産の高まりや商業・交易の活性化とともに生み出されてきた都市の自由な空気のもとで、人間の生死をめぐってバラモン教への反省^(A)や批判を背後にもつ多様な思想が登場してくる。とりわけ批判的立場からのものとしては、[b] の権威やバラモンの支配に異議を唱え、身分秩序を否定して、人間が背負う宿命と考えられてきた輪廻からの解脱を實踐する方途を説く思想があげられる。それを説いた代表的人物は、仏教の創始者ガウタマ＝シッダールタ（のちにブッダと称される）とジャイナ教を開いた [d]（尊称はマハーヴィーラ）である。彼らの思想はバラモンの支配に不満をいっていた王侯や商人からの支持を得るようになった。ブッダが生前にマガダ国王、同国の富裕商人、それぞれから出家者集団の修行の場となる僧院が寄進されたと伝わるのも、こうした状況をよく物語っている。

また、[e]（現パトナ）に都をおいていたマガダ国マウリヤ朝^(B)の第 3 代アショーカ王は、仏典 [f] という仏典伝承のための整理・編纂事業をおこない、仏教布教のた

(26 C 世)

めに王子をスリランカに派遣したとも伝わっており、ブッダの遺骨（仏舍利）を納めたストゥーパ（仏塔）も各地に造られたことから、同王の仏教への深い帰依をうかがい知ることができる。

〔g〕（現ペシャワール）に都をおき、中央アジアから西北インド一帯を支配下においたイラン系のクシャーナ朝の時代にも仏教が保護されたが、この時代、以前にはなかった動きとして仏像が彫られるようになり、^(D) 崇拜の対象が仏像へと広がる状況があらわれた。また、出家を解脱の条件としていた上座部仏教とは別に、在家・出家を問わず悟りは得られると説く大乘仏教が広がり、大乘仏教は中央アジアを經由して中国へと伝播した。

しかし、4世紀にマウリヤ朝と同じく〔e〕を都としたグプタ朝の時代になると、優雅で気品のある仏像があらわれる一方で、非アーリヤ系の土着の思想や習慣とバラモン教とが融合して広まっていったヒンドゥー教が定着していく。アーリヤ人の自然神で〔b〕においては天界の神々の中の一神であったが世界維持の神とされるようになった〔h〕神、土着の信仰とも結びついて破壊と創造の神とされてきたシヴァ神、いずれもがヒンドゥー教の主神となり信仰を集めるようになった。またグプタ朝では、従来よりバラモンが用いてきた〔i〕語が公用語として用いられ、ヒンドゥー教の聖典のひとつとされるようになった文学作品も〔i〕語を用いてまとめられた。^(E)

グプタ朝が減んだ後、7世紀前半に北インドを支配したヴァルダナ朝のハルシャ王は、自身はヒンドゥー教徒であったが仏教を保護した。しかし当時の仏教は僧院での学問という性格こそ強かったものの、大衆の信仰としては薄まりつつあった。その後の仏教は、南インドから広まりを見せ始めたヒンドゥー教の神々への絶対的な帰依をすすめる宗教運動（〔j〕運動）や、その後のムスリムのインド進出などから、次第に衰退の道に入っていくことになる。13世紀初頭にインドに最後まで残っていた仏教僧院がムスリムによって破壊されたことで、仏教はインドの地から姿を消したといつてよいほど衰退する。

問1 文中の空欄 a～j を埋めるのに最も適切な語句を記せ（同一記号は同一語句）。

問2 下線部 (A) について、

そのひとつに、バラモン教の中から生みだされた哲学的認識で、宇宙の根本原理（ブラフマン）と個人の根本原理（アートマン）とが究極的には同一であるという一元論的な認識を説いた「奥義書」とも訳される一群の書がある。それらは何という書か。

問3 下線部 (B) について、

マウリヤ朝成立以前からマガダ国を治めていた王朝でかねてより強勢を誇り、マウリヤ朝の初代の王位についた人物に滅ぼされた王朝名を記せ。

問4 下線部 (C) について、

スリランカで仏教を受け入れたのは、前5世紀ごろにアーリヤ系の人びとが移住して建てた王国であった。この人びとの民族名を記せ。

問5 下線部 (D) について、

ガンダーラ地方ではギリシア彫刻の影響を受けた仏像が彫られたが、同じ時期に北インドのヤムナー河畔の都市でも、ガンダーラの仏像とは趣の異なったインド独自の仏像が彫られはじめた。この都市名を記せ。

問6 下線部 (E) について、

前8世紀ごろに起こった王位をめぐる同族間での激しい戦いを題材とし、ヒンドゥー教では h 神の化身とされるクリシュナが登場する長大な叙事詩の題名を記せ。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の設問に答えよ。

ローマは、前3世紀前半に全イタリア半島を支配すると、次は地中海の覇権をめぐってポエニ戦争（前264年～前146年）をおこした。ポエニ戦争では、敵方の将軍 [a] がイタリア半島に侵入し、ローマは苦戦するが、持久戦ののち、ザマの戦いで将軍 [b] が [a] を破り、勝利した。これによりローマは西地中海の覇権を握った。なお、このときにローマが獲得した [c] 島は、ローマ初の [d] となった。[d] とは、イタリア半島以外にあるローマの支配地をさす。ローマは占領地を [d] として、総督と軍を派遣して統治した。[d] の民には様々な税が課せられ、総督などの搾取の対象となった。ローマの繁栄は、[d] からの富に支えられていたといえる。

ローマはその後、東方に進出し、前2世紀半ばにはギリシア全土を征服し、地中海全体をほぼ制覇した。だが、これらの征服戦争の間に、ローマ本国では市民の間の社会的・経済的格差が広がり、貧富の対立が激化した。そして、当時の政治家は、元老院の伝統的支配を守ろうとする閥族派と、無産市民や騎士が支持する平民派に分かれて争うようになった。

当時、最下層の貧民となっていたのは、没落した中小土地所有農民であった。彼らは長期の従軍に伴う耕地の荒廃や、[d] からの安い穀物の流入などを理由に経営難に陥ったことから、土地を手放して無産市民となった。無産市民は選挙権を持つことから、政治家たちは彼らの歡心を買うこと(A)で政治を左右しようとした。

前2世紀後半には、そのような状況に危機感を抱き、大土地所有者の土地を没収して無産市民に分配しようとする政治家もあったが、元老院や大地主の反対にあって失敗した。以後、有力政治家は互いに暴力で争うようになり、ローマは「内乱の1世紀」に突入した。前1世紀に入ると、平民派の軍人である [e] と閥族派の軍人である [f] が互いに無産市民を率いて私兵とし、それを軍隊にして争った。また、イタリア半島の同盟市がローマ市民権を求めて反乱をおこし、さらに、前73年には、トラキア出身の剣闘士 [g] が多くの奴隷を率いて大反乱をおこすなど、内乱は頂点に達した。

この混乱を鎮めたのが、当時有力であった政治家であり軍人でもある、[h]、カ

エサル、クラッススの3人であった。彼らは前60年に密約を結んで元老院と閥族派に対抗し、政権を握った。これを第1回三頭政治という。その後、カエサルはガリア遠征の成功によって指導権を獲得し、対立した を倒して前46年に全土を平定した。彼は連続して独裁官に就任して社会の安定化に努めたが、他方で反感が高まり、前44年、 を首謀者とする共和派に暗殺された。

前43年、カエサルの部下であるアントニウスとレピドゥス、カエサルの養子であるオクタウィアヌスが政治同盟を結んで閥族派を制圧した。これを第2回三頭政治という。やがてオクタウィアヌスは、アントニウスと対立し、前31年のアクティウム^(B)の海戦でアントニウスを破った。これにより、長きにわたった内乱は終わりを告げ^(C)た。

問1 文中の空欄 a～i を埋めるのに最も適切な語句を記せ（同一記号は同一語句）。

問2 下線部 (A) について、

ローマの政治家たちが無産市民などの都市下層民に無料で提供していたものを、のちの詩人が以下の言葉で端的に表現している。空欄イ、ロを埋めよ。

「 と 」

問3 下線部 (B) について、

アントニウスと結婚し、この海戦の際にもアントニウスと連合を組んで戦った、プトレマイオス朝エジプトの女王の名を記せ。

問4 下線部(C)について、

- (1) この内乱の終結後、オクタウィアヌスは前27年に元老院からアウグストゥス（尊厳者）という尊称を贈られた。その後、約200年にわたって続いた、ローマ帝国の安定期を何と呼ぶか記せ。
- (2) アウグストゥスは元老院などの共和政期の制度を尊重したが、実際はあらゆる要職を兼任し、すべての政治権力を有していた。このような政治体制の名称を記せ。

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで、下記の設問に答えよ。

全ヨーロッパ的規模で起こった、^(A)1848年革命と呼ばれる一連の反体制運動の後、フランスはナポレオン3世の治世期にさまざまな対外政策を展開した。

ヨーロッパにおいてフランスは、クリミア戦争への介入後、トリノを首都とする [a] と1858年に密約を結んでオーストリアと対峙した。最終的にナポレオン3世は密約に反してオーストリアと翌年講和を結び、[a] はロンバルディアをオーストリアから獲得するに至る。

アジアでは、フランスは1856年にイギリスとともに第2次アヘン戦争（アロー戦争）を起こした。さらにイギリスと共に [b] と [c] を占領して清と [c] 条約を結び、賠償金の支払いやキリスト教の布教の自由などを認めさせた。1858年以降には、カトリックの信徒や宣教師の迫害を口実にベトナムに軍事介入し、さらに1863年には [d] を保護国とした。後に、[d] は1887年に成立する [e] に編入されることとなる。

フランスはまた、19世紀初頭にほとんどの植民地を失っていた北米地域にも1861年に兵を差し向けた。このメキシコ遠征により、ナポレオン3世は同地を支配していたファレス政権を打倒し、1864年にオーストリアのフランツ＝ヨーゼフ1世の弟 [f] を皇帝に即位させて傀儡政権を樹立するも、人々の激しい抵抗に遭い、遠征は最終的に失敗に終わった。

^(B) 第三共和政期には、フランスはアフリカで広大な植民地の獲得に成功した。まず、1881年に [g] がフランスの保護国となった。その3～4年後にビスマルクの主導で開かれたベルリン会議で、アフリカ分割の諸原則が確認されると、フランスは西アフリカ及びサハラ砂漠地域と北東アフリカの [h] とを連結しようとする横断政策を採用した。1896年にはアフリカ大陸南東沖の島である [i] が植民地化されるなど、フランスによる支配は拡張していった。そのような中でフランスはイギリスの縦断政策と衝突し、1898年に両軍がファシヨダで衝突したが、フランスがイギリスに譲歩して、以降両国の関係は改善へと向かう。こうして、^(C)スーダン^(C)はイギリス・エジプトの支配下に置かれるようになった。また、フランスとイギリスはドイツに対抗するため、1904年の英仏協商でエジプトにおけるイギリスの優越権と [j] におけるフラ

(26 C世)

ンスの優越権を承認し合った。ドイツはフランスの への進出に異を唱えたが、結局 1912 年に同地はフランスの保護国となり、その一部は に譲渡された。

問 1 文中の空欄 a～k を埋めるのに最も適切な語句を記せ（同一記号は同一語句）。

問 2 下線部 (A) について、

オーストリアからの独立宣言を起草するなど、当時のハンガリーで独立運動を指揮した政治家の名を記せ。

問 3 下線部 (B) について、

1863 年の「草上の昼食」の作品で知られるあるフランス人画家は、1869 年に「皇帝 の処刑」を描いてこの遠征を批判した。「近代絵画の父」と呼ばれることもあるこの画家の名を記せ。

問 4 下線部 (C) について、

反英・反エジプト武力闘争として、この地で 1881 年から 1898 年にかけて展開された宗教運動は何か。

〔Ⅳ〕 つぎの文章を読んで、下記の設問に答えよ。

人類社会の歴史は、自然環境との深い関わりの中で営まれてきた。約700万年前に出現したとされる^(A)人類は、氷期と間氷期がくりかえされた更新世（洪積世）の時代、それぞれの自然環境に適応しながらゆっくりと進化の過程をたどってきた。約一万年前、氷期が終わり [a] 世と呼ばれる地質年代に入ると、地球は温暖化し、気候や地形は現在とほぼ変わらない様相になった。このころになると、狩猟や漁労、採集に加えて農耕や牧畜も営まれるようになる。人類は今や自然に働きかけ、その力を制御し、活用するようになったのである。

こうした自然の利用は、ときに環境破壊につながることもあった。例えば、乾燥地での農業を可能にする治水技術であった灌漑は、塩害をひきおこし、かえって土地を荒廃させることもあった。また、頑強な針葉樹として古代オリエント世界で重宝された [b] 杉は、神殿や船の建築材、ミイラを安置する木棺などに用いられていたが、乱伐によって森林破壊が進み、現在ではほとんど姿を消してしまった。

自然の持つ強大な力は、人類に恵みをもたらすだけでなく大きな脅威ともなった。地震や津波、噴火などの自然災害は、人類史上幾度となく人々の生活を脅かしてきた。例えば、帝政ローマ期の紀元後79年、ナポリ近郊のヴェスヴィオ火山でおこった噴火は、火砕流によってふもとの [c] の街を埋没させてしまった。また、18世紀半ばにポルトガルの首都 [d] で起こった大地震は、火災と津波によって市街地のほとんどを壊滅させた。この大地震の惨状は広くヨーロッパ各地に伝えられ、当時の思想家たちにも大きな衝撃を与えた。^(B)

人々の生活を一瞬にして破壊する自然災害だけでなく、長期的な気候変動も人類の営みに大きな影響を及ぼしている。紀元前後の400～500年間は世界の気候が温暖化し、古代帝国の繁栄や東西の交流が促されたが、^(C) 寒冷期には大規模な民族移動や食料をめぐ^(D) る争いが発生した。その後、産業革命が進展すると、化石燃料の消費量急増に^(E) ともなって二酸化炭素などの [e] ガスが増加し、急速な温暖化が進んだ。近年では、工業化以降、土壌、海洋、大気圏などすべての環境が地球規模で悪化している現状が知られるようになり、危機対応のための国際協力が求められるようになっている。1997年に締結された [f] 議定書では、二酸化炭素などの排出削減を先進国に^(F)

義務づけ、地球温暖化防止の国際的取り組みにむけた第一歩が踏み出された。さらに2015年に採択された g 協定では、途上国を含めた世界各国が地球の平均気温上昇を抑える努力をすることが合意されている。

問1 文中の空欄 a～g を埋めるのに最も適切な語句を記せ。

問2 下線部(A)について、
直立二足歩行をし、石器を使用したとされる最古の化石人類を何と呼ぶか。

問3 下線部(B)について、
地震を神罰としてではなく自然現象として解明しようとしたドイツの哲学者で、主著『純粹理性批判』でも知られる人物は誰か。

問4 下線部(C)について、
中国の『後漢書』には、ローマ皇帝マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスの使者を名乗るものが日南郡に到着したと記されているが、ここで当時のローマ帝国は何と称されていたか、漢字2字で記せ。

問5 下線部(D)について、
ヨーロッパ世界はたびたび寒冷化に見舞われた。このうち、17世紀に進んだ寒冷化を背景に生じた「17世紀の危機」と呼ばれる現象について、100字以内で説明せよ。ただし、句読点は1字とせよ。

問6 下線部(E)について、
産業革命期、森林資源の枯渇により不足していた木炭にかわり、あらたなエネルギー源として急速に需要が高まった化石燃料は何か。

問7 下線部(F)について,

この当時, 二酸化炭素などの ガスの世界最大の排出国で, 最終的にこの
議定書を批准しなかった国はどこか。